

住民ワークショップ結果・分析報告

1. 目的

住民目線での芦屋町の課題や現状、住民の思いを把握し、第6次総合振興計画策定のための基礎資料とすること。

2. 実施概要（全2回）

- | | |
|-----------|--|
| (1) 実施日程 | 【第1回】令和元年11月28日（木）
【第2回】令和元年12月19日（木） |
| (2) 実施場所 | 芦屋町役場 3階 31会議室 |
| (3) 参加人数 | 【第1回】22名 【第2回】26名 |
| (4) 参加者構成 | 各種団体から選出された方、公募委員、芦屋町役場職員 |
| (5) 実施手法 | 5名程度の班をつくり、グループワーク |

3. ワークショップのテーマ

【第1回】令和元年11月28日（木）

テーマ『「今までのまちづくり」を振り返ろう』

芦屋町の魅力と課題を踏まえ施策を評価し「芦屋町の通信簿」を作成

【第2回】令和元年12月19日（木）

テーマ『「未来のまちづくりの方針」を考えよう』

第1回目で作成した「芦屋町の通信簿」をもとに、今後取り組むアイデアを出し、そのアイデアのもとに芦屋町の将来像のキーワードを抽出

4. 実施報告

【第1回住民ワークショップ 評価点数】

全班共通して平均点以下となった（改善していくところ）のは「5. 活力ある産業を育むまち」であった。
 全班共通して平均点以上となった（伸ばしていくところ）のは「1. 住民とともに進めるまちづくり」、「3. 子どもがのびのびと育つまち」、「7. 心豊かな人が育つまち」であった。

基本目標	第1回(芦屋町の通信簿)				良い点	気になる点
	1班	2班	3班	4班		
1. 住民とともに進めるまちづくり	3	3.5	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○住民活動は活発に行われている ○人柄がよい ○子どものあいさつが多い ○住民参画などの会議が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ×参加者、協力者の固定化 ×外から来た人に冷たい ×芦屋組と山鹿組に分かれている ×住民参画には高齢者が多い ×役場と住民の間に温度差がある
2. 安全で安心して暮らせるまち	2.5	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団の活動が活発 ○災害が少ない ○通学路などで何かがあった場合、対応が良い ○見守り隊の活動が活発 	<ul style="list-style-type: none"> ×防災意識や災害への危機感が低い ×警察官が常駐しておらず、犯罪への不安がある
3. 子どもがのびのびと育つまち	4	3.5	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の先生も頑張っており、支援教育にも力を入れている ○町おこしのフェスタや花火大会がある ○子ども会の活動も活発で行事に子どもが参加する ○学校の設備が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ×子どもの数が少なくなっている ×行事が多く、子どもにゆとりがない ×中央公園に遊具がなく、子どもの遊び場の確保が必要
4. いきいきと暮らせる笑顔のまち	3.5	2	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ○小さい町ではあるが病院がある ○あしたの会やお弁当の配達などの活動がある 	<ul style="list-style-type: none"> ×医療・福祉のさらなる充実をして欲しい ×高齢者が高齢者を支えている ×アッシーグラウンドの利用者が少ない ×障がい者対応は前例がないと動かない ×特別支援学校が町にない
5. 活力ある産業を育むまち	2	2	2.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ○観光、農業祭、砂像などの資源はある ○お店を出店する新規の方への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ×一次産業を中心に担い手が不足している ×イカの不漁 ×ホテル・土地がない ×商店街の活力が低下 ×子どもと食事をする場所がない ×農業・漁業に対する支援の不足
6. 環境にやさしく、快適なまち	4	3	2	4	<ul style="list-style-type: none"> ○町営住宅や公園、上下水道、道路等の整備がされている ○海がきれい ○グリーンキャンペーン等の環境美化活動が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ×交通の便が悪い ×道路交通の安全性が不安 ×飛行機がうるさい
7. 心豊かな人が育つまち	4	3.5	4	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ○文化・スポーツ活動が盛ん ○体育館が充実し、老朽化施設の整備も進んでいる ○芦屋釜がある ○浜運動会や釜の里のイベントがある ○同和教育が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ×文化施設はあるが利用されていない ×歴史の教育が偏りがち ×伝統文化の継承が課題
8. その他						

【第2回住民ワークショップ 重点プロジェクト】

第1回で課題としてあげられた産業振興と交通利便性に対応した、芦屋町の魅力を活かした観光関係のプロジェクトや交通利便性関係のプロジェクトが多くあげられている。

第2回(重点プロジェクト)
<ul style="list-style-type: none"> ◆近所さんプロジェクト ◆クリーンな町作りプロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ◆元気な芦屋っ子政策プロジェクト ◆安全（下校時の見守り、青パト）
<ul style="list-style-type: none"> ◆人に優しくプロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ◆芦屋に足を運んでもらおうプロジェクト ◆海と夕日のプロジェクト ◆芦屋の心、再発見+そうだ、芦屋に行ってみようプロジェクト ◆産業、観光プロジェクト ◆観光 PON PON プロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ◆交通の利便性改善大作戦 ◆交通アクセスプロジェクト ◆交通革命プロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ◆芦屋町から金メダリスト
<ul style="list-style-type: none"> ◆人口を増やすプロジェクト

【第1回目住民ワークショップにおける各基本目標の評価のまとめ】

- 1. 住民とともに進めるまちづくり**
住民の活動は活発に行われているが、参加者の固定化や外から来た人に冷たいといった問題がある。
- 2. 安全で安心して暮らせるまち**
消防団等の活動は活発で災害も少ないが、防災に対する意識の低さや犯罪への不安といった問題がある。
- 3. 子どもがのびのびと育つまち**
学校教育や子ども会等の活動は良好だが、行事が多いため子どもにゆとりがない、子どもの遊び場の確保といった問題がある。
- 4. いきいきと暮らせる笑顔のまち**
芦屋中央病院があり、また、お弁当配達などの取り組みが評価されているが、さらなる医療・福祉の充実や高齢者が高齢者を支えている状態が問題とされている。
- 5. 活力ある産業を育むまち**
観光や農業祭などの資源はあるが、商店街の衰退や不漁といったまちの活力の低下、担い手の不足が問題となっており、全項目でも最も評価が低い。
- 6. 環境にやさしく、快適なまち**
町営住宅や公園、道路等の整備は進んでおり、また、グリーンキャンペーン等の活動も評価されている。公共交通や道路網といった交通面の問題が各班から共通で出されている。
- 7. 心豊かな人が育つまち**
文化・スポーツは活動も盛んで施設も整備されているが、利用者が少ない。伝統文化の継承が問題となっている。

【第1回住民ワークショップ 全体のまとめ】

全体を通してみると、住民の活動は活発であるが、参加者の拡大や意識の向上が求められている。人口減少、高齢化に伴う、住民活動や産業の担い手の確保が求められている。芦屋町の魅力資源の継承と活用による観光振興が求められている。特に、産業振興と交通利便性の向上が共通した課題となっている。

芦屋町のキャッチフレーズとして、「人」「自然(海)」「文化」「つながり」が共通している。今ある芦屋町の魅力を最大限活用し、魅力的なまちをみんなでつくるという考え方であることが分かる。

第2回(芦屋町のキャッチフレーズ)

温もりでつながる芦屋町
ぬくもりで繋がる芦屋町

人・自然・文化
魅力あふれる芦屋町

あしたもあしや
～人、海、文化で『魅せる』まち～

歴史と文化を彩るまち あしや

あしや町 WO 世界へ
～one team を目指して～

分野ごとの評価理由のまとめ

まとめ	よいところ	気になるところ
1. 住民とともに進めるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア団体などがあって、形（組織）はできている 住民福祉活動ボランティアの参加が多い。⇒サロンなど 人がやさしい 子どものあいさつが多い。大人が子どもに積極的に声をかける 体操教室・サロンなどが増えている。ボランティア団体が多い 自治区のボランティアがすごい 住民参画など会議が多い 朝の交通安全など、毎日立って来ていたりしている 	<ul style="list-style-type: none"> 役場と住民の間に温度差がある 住民参加、高齢者が多い 地域差がある 協力者・非協力者がはっきりしている 毎回同じ人が行事に集まる 外から来た人に冷たい。よそ者、どこから来た？ときかれる 芦屋と山鹿。橋を境に2つに分かれている（山鹿組、芦屋組） ボランティアにはいつも同じ団体・人が参加している 住民の意見を反映していない ボランティアをしている方々への感謝がない。広報活動でもっと広めるべき
2. 安全で安心して暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> 消防団は頑張っています！！ 災害が少ない 消防団の活動。火災現場に着くのは郡内では芦屋がNo.1 消防団の平均年齢が低い データ上、津波の心配がない 通学路などで何かあった時、すぐに動いてくれる 見守り隊がよく活動している 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路と産業道路の住み分けが出来ていない（通学路が危ない） ハザードマップについての住民意識が低い 災害への危機感が低い ドロボーが多い 警察官が常駐していない 町民の防災意識が低い 災害（津波）誇大広告。安心感を与えて訓練を！ 青パトは限られた人しか乗れない。もっと青パトを活用すべき
3. 子どもがのびのびと育つまち	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の先生方はよく頑張っている！！ 特別支援教育に芦屋は力を入れている 子ども会など子どもに関する事業が多い 行事に子どもが参加している 広い公園や町おこしのフェスタがある 花火大会がある 学校の設備がいい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが少なくなっている 行事が多く、勉強に時間を費やしているか。子どもにゆとりがない 中央公園に遊具が少ない。公園の整備 未就学の子は支援センターの利用があるが、小学生からはない
4. いきいきと暮らせる笑顔のまち	<ul style="list-style-type: none"> 小さい町ながら病院がある あしたの会のような共助が出来る団体が発足しているのが良い 病院が新しい 医療の充実 お弁当の配達 	<ul style="list-style-type: none"> 医療、福祉共に、もう一歩踏み込んだ行動をしてほしい 障がい者への対応は北九州に右にならえ。前例がないと動かない 高齢者が高齢者を支えている 特別支援学校が町になく、他市町村に行く必要がある 新しいグラウンド（アッシーグラウンド）の利用者がいないのが残念 交通の便が悪い
5. 活力ある産業を育むまち	<ul style="list-style-type: none"> 砂像 観光業 サワラサミット 農業祭 お店を出展する新規の方への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足が解消されない 土地がない 観光資源はあるが、ホテルがない イカの不漁 商店街 シャッターが閉まっている店が多い 子どもとごはんを食べに行く場所がない 観光業は力を入れているが、一次・二次産業の担い手がない 農業・漁業に対しての支援の不足
6. 環境にやさしく、快適なまち	<ul style="list-style-type: none"> 町営住宅・公園がきれいになってきている 公園など、環境は良い。きれい 上下水道 海もきれい 道路の整備、改善がされている クリーンキャンペーンなどの環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> 道路交通の安全性が不安 交通機関 夏場に海浜公園の駐車場が有料なのはおかしい 交通の便が悪い 交通網の整備（道路） 飛行機がうるさい
7. 心豊かな人が育つまち	<ul style="list-style-type: none"> 文化、スポーツ活動が盛ん 芦屋釜が「文化」といえばすぐ出てくる 体育館が充実している 老朽化施設が徐々にキレイになっている 同和教育を行っている 子どもたちがあいさつしてくれる 芦屋釜がある 芦屋ならではの行事（浜運動会） 生涯学習課長の活動力が良い 釜の里を利用したイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設はあるが活用されていない 歴史の教育に偏りがある。川ひらたの教育にも力を入れるべき 伝統文化を継承しているのか！？

第6次芦屋町総合振興計画策定に向けた

住民ワークショップニュース

1号

芦屋町の通信簿をつくりました！

プログラム

1. 開会・あいさつ
2. 芦屋町総合振興計画とは？
3. 参加者自己紹介
4. ワーク「芦屋町の通信簿をつくろう！」
5. グループ発表
6. まとめ
7. 閉会



ワークショップの構成

第1回

令和元年 11 月 28 日（木）

テーマ

「今までのまちづくり」を振り返ろう

第2回

令和元年 12 月 19 日（木）

テーマ

「未来のまちづくりの方針」を考えよう



まちづくりや町政の指針となる「第5次芦屋町総合振興計画」が令和2年度に計画期間が終了します。

そのため、次期計画である「第6次芦屋町総合振興計画」を策定するにあたり、これまでの計画の成果を検証するとともに、住民の皆さんのニーズやご意見をお聞きし、計画に反映させるために、ワークショップを開催しました。

第1回目となる今回は、「芦屋町の通信簿」と題し、これまで町で取り組んできた施策や取組を通信簿形式で評価していただきました。数字で評価してもらうだけでなく、評価の理由を語り、議論していただく中で、皆さんの町に対する熱い思いをお伺いできました！

第2回ワークショップでは、今回の結果をもとに、新たな10年間での取り組みアイデアや、町の将来像を議論していきたいと考えています。

芦屋町の現状の共有

統計情報や住民アンケートの結果より「芦屋町の現状」を共有しました。「安全・安心対策」「道路・交通の改善」「医療・社会福祉の整備」「生活環境の改善」等が課題となっています。

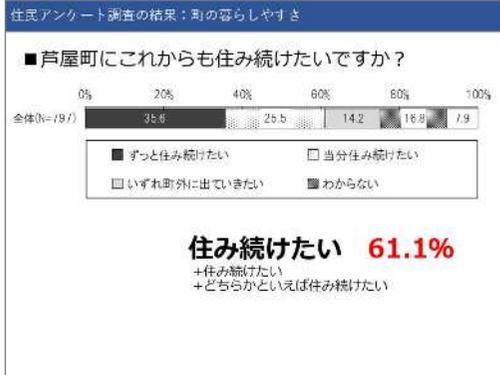
■芦屋町の人口（実績値・将来予測）



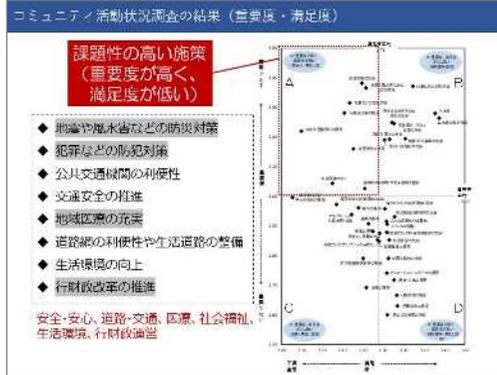
■芦屋町の年齢別人口（実績値）



■H29 住民アンケート調査の結果（住み続け意向）

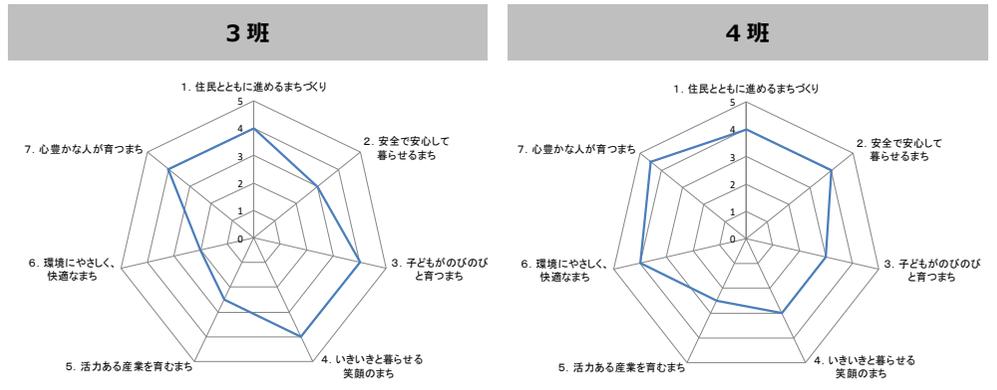
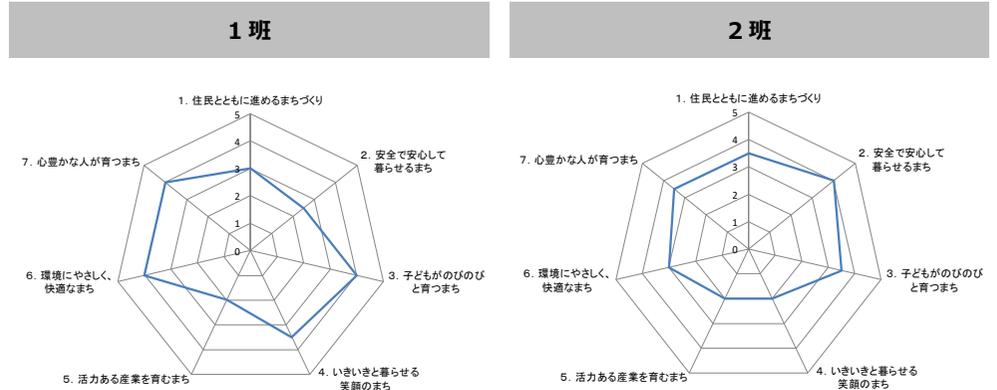


■H29 住民アンケート調査の結果（重要度・満足度）



各班の通信簿(レーダーチャート)のまとめ

分野別に5段階で評価し、通信簿づくりをしました。個々人の評価とその理由を踏まえ、班全体の評価を行いました。「伸ばしていくところ」は『心豊かな人が育つまち』、「改善していくところ」は『活力ある産業を育むまち』である、という結果になりました。



【班ごとの評価点数の見方】

ピンク は伸ばしていくところ（点数が高い）
青 は改善していくところ（点数が低い）
として各班で評価された分野です。
班ごとに特性はありつつも、「伸ばしていくところ」「改善していくところ」はおおむね共通しているようです！



基本目標／班	1班	2班	3班	4班
1. 住民とともに進めるまちづくり	3	3.5	4	4
2. 安全で安心して暮らせるまち	2.5	4	3	4
3. 子どもがのびのびと育つまち	4	3.5	4	3
4. いきいきと暮らせる笑顔のまち	3.5	2	4	3
5. 活力ある産業を育むまち	2	2	2.5	2.5
6. 環境にやさしく、快適なまち	4	3	2	4
7. 心豊かな人が育つまち	4	3.5	4	4.5

ワークショップの様子



第6次芦屋町総合振興計画策定に向けた

住民ワークショップニュース

2号

芦屋町の重点プロジェクトと将来像を検討しました！

プログラム

1. 開会・あいさつ
2. 前回の振り返り、本日のプログラム
3. 参加者自己紹介
4. ワーク「まちを良くする100の戦略」
5. ワーク「芦屋町の将来像」
5. グループ発表
6. まとめ
7. 閉会



ワークショップの構成

第1回 令和元年11月28日(木)
テーマ 「今までのまちづくり」を振り返ろう

第2回 令和元年12月19日(木)
テーマ 「未来のまちづくりの方針」を考えよう



現在、本町では、新たな「第6次芦屋町総合振興計画」の策定に取り組んでいます。計画の策定にあたって、住民の皆さんのご意見をお聞きし、計画に反映させていくために、住民ワークショップを開催しています。

第1回目の「芦屋町の通信簿」の作成では、これまでの10年間の芦屋町の取組みについて、住民の皆さんの目線で評価を行いました。

この結果を踏まえ、第2回目となる今回は、まず次の10年間における取組みについてアイデア出しを行いました。そのアイデアは「芦屋町をどんな風に良くするのか？（目標は何か?）」という視点から“プロジェクト”としてまとめていきました。

そして、プロジェクトに取り組んだ結果、「10年後の芦屋町はどんな姿だろう?」をイメージして、芦屋町の新たな将来像のキャッチフレーズを考えました。

重点プロジェクトにはならなかったプロジェクトのご紹介

3つの重点プロジェクトのほかにも、たくさんのプロジェクト提案がありました（重点プロジェクトは裏に記載）。

集いの場

何でもいから（一人一つ）町のために自分ができること運動をする

緑ヶ丘の町営住宅は老人が多いと聞いているので、集会所で老人のためのイベントを沢山行えば良いと思う

地域で子育てプロジェクト

3小学校の生徒が同じ中学校に行くことになるので、小学校間の交流が増えると良い

カミナリ親父、おせっかいオバサンをどんどん増やそう

これからもずっと子育てしやすい町に

まちづくりプロジェクト

花美坂のように新しい住宅を建てる。土地を開拓して人口減をできるだけい止めたいと思ったら良いと思う

道路等の草刈りの頻度を上げ、環境美化アップ

芦屋 中洲化計画

呑み屋が多い。交通の便が良くなればもっと良くなる

何だかんだ言っても、やはり良い物が旨い

景観の良い場所が多い。ビアガーデンしたい

特産品に力を入れる

産業振興プロジェクト

芦屋町をもっと発展させるため、企業の誘致ができないか

芦屋に合った新しい産業探し

世界オンリーワン計画

他の町にない新種の特産物研究から実現まで

住民、店舗増加プロジェクト

町の空き地、町営住宅の空き地を売って、住居を増やす

農業・漁業を支援。担い手を支援するプロジェクトを立ち上げる

商店街の家賃を安くし、商店街の空き店舗を減らす

区加入率を上げる



2時間のワークショップで提案されたプロジェクトは、合計22個！住民・事業者・行政が一丸となって取り組む姿がイメージできますね。

住民ワークショップへのご参加のお礼

この度は住民ワークショップにご参加をいただき、誠にありがとうございました。平日の夜とお忙しい時間にも関わらず、多くの方がお越しくださいました。

皆さまの第5次総合振興計画の評価と、第6次総合振興計画に向けた提案は、貴重なご意見として計画策定に活用させていただきます。令和2年度の第6次総合振興計画案の公表まで、しばらくお待ちください。



次の10年間の「芦屋町の将来像&3つの重点プロジェクト」

5班に分かれ、第6次芦屋町総合振興計画における取組みアイデアを出していきました。その後、アイデアを「プロジェクト」としてグルーピングを行い、次の10年間で目指す「芦屋町の将来像」としてキャッチフレーズを作成しました。

●●1班●●

温もりでつながる芦屋町 ぬくもりで繋がる芦屋町

交通の利便性改善大作戦

交通利便性の改善

町内を回っている無料バスを有料(100円)にしても、回数を増やして、誰でも乗れるように

芦屋町から金メダリスト

スポーツ選手への強化予算をつける(芦屋の子)

健康な町

高齢者
スポーツの
充実

芦屋に足を
運んでもらおう

女子会ができるお店を増やす

イベントの宣伝強化
環境を活かした施設

海岸道路の利用
→町の活性化

衣料品等も扱う大型店を

海産物を取り扱う
食事処を町の中心に

マンガの聖地となり、集客へ活かす

●●2班●●

人・自然・文化 魅力あふれる芦屋町

海と夕日の
プロジェクト

海の活用

芦屋に足を運んでもらい、良く知ってもらう

各イベントの
関連性。単発ではダメ

芦屋の夕陽を
売り出そう

新たに道の駅を造ったら、人が集まるのでは

町民誰もがイメージできる
芦屋像を作る

芦屋釜の里に
結婚式場を併設できないか

常設の砂像展示場設置

交通アクセスプロジェクト

車がないと不便なので交通の便を良くし、もっと町外とのアクセスを

高齢者に優しい交通手段の確保

ご近所さんプロジェクト

声をかける・話をする

町民体育祭のような町民全体のイベント

興味のある自治区作り

町民が町に本音を言える場

アッシーグラウンドの有効利用

特色のある町づくり

●●3班●●

あしたもあしや ～人、海、文化で『魅せる』まち～

交通革命

高齢化も意識し、交通手段を充実

岡垣方面にもバス

元気な芦屋っ子政策

明るい子どもたち
学力向上意識が高い

防災・防犯意識の向上

登山やキャンプなど、子どもの体験プログラム増へ

ケータイゼロからケータイ知識最高の町へ

芦屋の心、再発見 + そうだ、芦屋に行ってみよう

福祉活動・ボランティアの参加や人情味が厚い人が多い

少ない農家でもレベルの高い農作物
→独自の農業祭などでは?

学生が行きやすい店を増やす

ボートレース場の駐車スペースを使って祭りや音楽イベント等

広報が弱い

祭りあしやの開催場所

芦屋⇄岡垣⇄宗像を往来するサイクリング大会

砂像、ボートレース、基地等を活かした町づくり

夢リアホールの活用

●●4班●●

歴史と文化を彩るまち あしや

安全

下校時の見守りがない

青バトの活用

人口を増やす

芦屋町 TV

芦屋高校

ボランティア団体、活動者を町に広める

芦屋中央病院の評判を向上

行事参加者が固定している

産業、観光

働く場所を増やす

ボートレース
芦屋の有効活用

八朔の馬を作り、後継者育成のため小学校で教える

城山に城を作り、ベルトコンベヤーで上げられるように

幅広い年齢層で1年中遊べる場所作り

魚見公園、展望台へのバイクでの乗り入れ

アクアシヤンのドーム化

役場の職員の半分以上が町外居住者。町内者を多く採用

遠賀川を利用し、山鹿、芦屋での源平合戦的な祭りを開催

川筋男の心意気な祭り。子どもの部、大人の部、壮年の部

●●5班●●

あしや町 WO 世界へ ～one team を目指して～

観光 PON PON プロジェクト

一年を通じ観光客を増やす(施設を作る)

周知されているイベントがある(花火や砂像)

観光資源の有効活用が必要

町内イベントをもっと広く広告・宣伝

子どものためのイベントで家族を集客

人に優しくプロジェクト

特別支援学校がいる

医療・福祉の充実を売りにする

高齢者や障がい者の住み良い町に

クリーンな町作り

住民の意見よりも、決まった人の意見しか反映されない。クリーンな町作りを

本当の意味で、住民の意見を吸い上げる

■グループワークの成果

